

うらら 平成 30 年度事業報告

相談援助部門

事業部門	年度活動計画に対する結果報告	目標値
<p>地域包括支援センター (あんしんセンター)</p>	<p>基本方針</p> <p>①高齢者を支える地域づくりの推進</p> <p>②高齢者の自立支援・重度化防止</p> <p>③認知症施策の更なる深化</p>	
<p>みずべの苑 地域包括支援センター</p>	<p>①高齢者を支える地域づくりの推進</p> <p>②高齢者の自立支援・重度化防止</p>	<p>①すべての世代が繋がりに・支え合う街づくりプロジェクト（志茂ジェネ）の取り組みを推進していく →しもぞうハウスの活用推進では、より子育て世代も入りやすくするため、各種団体の活動場所としてではなく、開催時にカフェとしてオープンできるよう関係者と調整した あいさつさん活動の方では登録者数は増えてきているが活動内容についてはそれほど充実しておらず、次年度も検討を重ねていく</p> <p>②介護予防で元気はつらつサロンを毎月開催し、おたっしや筋力アップ教室の参加を推進する →はつらつサロンを毎月開催。 次年度の開催にむけ、講師をしていただく事業所との調整を重ねた。また、認知症が疑われているサロンの利用者を、状況を見ながら個別支援へとつなげていった</p>

	<p>③認知症施策の更なる深化</p>	<p>③認知症カフェや、家族介護者教室、ケアマネサロン等で地域の医療関係者に講師として参加して頂き連携を図る</p> <p>→認知症施策に携わる職員を厚く配置するため看護師1名常勤登用した</p> <p>認知症カフェを年12回（認知症家族の会も同時開催）開催支援が必要な方の早期発見に努め個別支援へとつなげた</p> <p>多職種協働研修を他包括と共に運営した</p> <p>北区認知症事業各種研修の企画運営</p> <p>認知症事業者連絡会に参加</p> <p>認知症サポーター養成講座開催（一般2回/年、事業所1回/年）</p> <p>認知症初期集中支援の新規ケース（3件/年）</p> <p>3包括合同認知症サポーターステップアップ講座の開催</p>
<p>赤羽 地域包括支援センター</p>	<p>①高齢者を支える地域づくりの推進</p> <p>②高齢者の自立支援・重度化防止</p>	<p>①北区単独では初となるRUN伴+の開催</p> <p>→区で初めて開催したRUN伴+に約90名の方にご参加頂き、来年以降も継続の予定</p> <p>②住民主体に繋げるために課題となっていることを、参加者と話し合いの場を設ける。また、支援を継続しつつ、中心となる方の働きかけを行う</p> <p>→うたごえサロン in スカイハイツ</p>

	<p>③認知症施策の更なる深化</p>	<p>を自主化。岩淵で新しいサロン「ヨガサロン」を企画</p> <p>③認知症カフェや、ケアマネサロン等で医療職の方にご参加いただき連携を図る。</p> <p>→これまでに参加していない職員中心に、多職種連携研修会、顔の見える連携会議へ参加</p> <p>認知症サポーター養成講座は定員を超えての申込みがあり、第2回を追加で実施</p>
<p>十条 地域包括支援センター</p>	<p>①高齢者を支える地域づくりの推進</p> <p>②高齢者の自立支援・重度化防止</p> <p>③認知症施策の更なる深化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センターから遠方の地域へ出張タイプのサロンを立ち上げる。 ・連絡会の開催で住民と関係機関を結び、見守り体制のスキルアップ、地域課題を抽出。 →かんななパーク、どらどら十条スタート集客順調 ・おたっしや筋力アップ教室参加推進、自主グループ活動への支援 →家族介護者教室で地域の理学療法士を講師に招き「介助のコツ等」を教授いただき自立支援や重度化防止を図った。 ・顔の見える連携会議等の研修参加で医療機関との連携を深める。 ・地域の医療機関を活用認知症カフェの協力を求める。 ・認知症地域支援推進員を手厚く配置、センター長と看護師の兼務を外す

(看護師を常勤換算数で
1増員)。

→顔が見える連携会議の企画
推進を実行中。認知症カフェ
ではJサロンに毎月、大崎
Drにご参加いただきミニ講
座や個別相談を行っている。
ダイニングまちなか(民間レ
ストラン)にて認知症カフェ
の自主開催と家族の集いを
行い十条包括が中心的役割
を果たしている。

事業部門	年度活動計画に対する結果報告	目標値
<u>居宅介護支援事業所</u>	基本方針 1. 質の高いケアマネジメントの実施 2. ケアマネ1人当たりの計画費件数の向上 (31→35件)	

